

# あれこれファレンス



ミニ図書館だより【なんでも質問箱】

No. 200

平成27年4月1日  
熊本県立図書館発行

## “レファレンスサービス”ってなに？

図書館で所蔵しているたくさんの資料を活用して、皆さんが調査したい内容をより早く正確に調べられるようお手伝いするサービスのことです。

この「あれこれファレンス」では、過去に受けたさまざまなレファレンスの中から、いくつかの興味深い事例をピックアップして紹介します。へえ～こんな質問も図書館で分かるのか！と、楽しめること間違いなしです。

### Q. おたずね

新聞で夏目漱石の第六旧居の保存活動についての記事が載っていましたが、第六ということは何度も引っ越しをしたのですか？また他の家はどこにあったのですか。



### A. こたえ

夏目漱石は明治29年4月に熊本に第五高等学校の英語教師としてやってきました。それから明治33年7月にロンドン留学のために熊本を去った4年3か月の間に6回も引っ越しをしました。話題になっている第六旧居は熊本最後の4か月を過ごした家です。

漱石が住んだ家が残っているのは、漱石記念館になっている第5旧居、水前寺公園近くのジェーンズ邸の横に移築された第3旧居、そして上記の第6旧居の3カ所です。

仮住まい：明治29年4月 薬園町の菅虎雄の家（薬園町9丁目11番7号）

第一旧居：明治29年5月～明治29年9月 光琳寺の家（下通り1丁目7番16号または17号）

第二旧居：明治29年9月～明治30年9月 合羽町の家（坪井2丁目9番11号）

第三旧居：明治30年9月～明治31年4月 大江の家（新屋敷1丁目16番地）

第四旧居：明治31年4月～明治31年7月 井川淵町の家（井川淵町1番30号）

第五旧居：明治31年7月～明治33年3月 内坪井町の家（内坪井町4番30号辺り）

第六旧居：明治33年3月～明治33年7月 北千反畑の家（北千反畑町3丁目3番16号）

（\*住所は全て熊本市中央区）

熊本時代の漱石は教師であり、俳句に熱中していました。「涼しさや裏は鉦打つ光琳寺」という場所が分かるものや、「名月や十三円の家に住む」など家賃の高かった2番目の家のことなど、漱石が残した俳句からも当時の様子がうかがえます。

熊本時代、漱石は結婚をし、長女の筆子も生まれます。家に転がり込んできた書生の俣野義郎、土屋忠治もたくさんのエピソードを残しましたし、科学者 寺田寅彦が漱石の俳句の弟子として通いました。内坪井などでは犬も飼っていました。それぞれの家での出来事がのちの作家活動に大きく影響を与えていると言えるのではないのでしょうか。

参考文献：「漱石の四年三か月」（E910.2/ナ/漱石）「方位」第19号（E910.2/林/漱石）

「漱石さんと歩く熊本」（E910.2/ナ/漱石） 漱石記念館常設パネル 等



おといあわせ 熊本県立図書館

〒862-8612 熊本市中央区出水2-5-1

TEL:096-384-5000 FAX:096-385-4214 Email:toshokan@pref.kumamoto.lg.jp